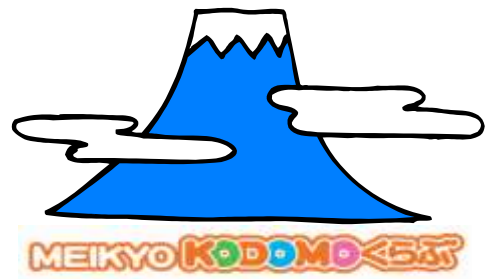
# ほっぷ すてっぷ じゃんぷ

特訓進学塾 名教




2011年度版 第10号

塾長コラム

## あんぱんち

～第二十二回～

寒い日が続きます。かぜやインフルエンザでお休みをする生徒もやや多くなっています。私も、先月、体調をくずし、お休みをいただきました。申し訳ありませんでした。一方で、塾の休み時間には、外で元気よく遊ぶ子どもの姿が毎日見られます。あらためて、「子どもって、元気」ですね。

さて、先日のTERAKOYAタイムの1コマ、ある小学生に算数を教えていたときのお話です。「今日は、バーゲンセールです。セーターを2割引きで買ったら1600円でした。このセーターの値引き前の金額はいくらでしょう。」こんな問題でした。これは、小5の割合の学習で、もとにする量、くらべる量、割合（何倍、何割、何%）を表す3つの数字をやりとりする単元です。正解は、1600÷(1 - 0.2)＝2000(円)です。ところが、この生徒は、1600×(1 - 0.2)＝1280(円)としていました。「先生、質問！何度計算しても、バーゲンのときの値段の方が高くなっちゃうよ・・・。」と言っています。もちろん、かけ算と割り算の選択を誤っているわけですが、私は、この疑問に大変感心しました。模範解答を見て、正解と合わずに、分からないと言っているのではありません。割り引きをしているのに、もとの値段の方が、値引き後の金額よりも安くなってしまうという点で、おかしいと言っているのです。抽象的になりがちな算数の世界を、実態を持ってとらえられている証拠です。

算数や数学を教えていると、計算に没頭するなど、抽象的になりすぎてしまい、実態をもってとらえられないケースをよく見かけます。図形の角度を求める問題で、明らかに一直線を超え180度より大きい角なのに、2度と答えてしまったり、速さの問題で、人の歩く速さを時速200kmとしてしまう誤答です。その点、値引き前の金額について、あのような疑問を持てたことに、感心したのです。

お伝えしてきたとおり、新学習指導要領が実施され、批判されてきたゆとり教育が終わります。その批判の象徴だった「円周率3」は、すでに消えています。小5算数の旧学習指導要領では、「円周率としては3・14を用いるが、目的に応じて3を用いて処理できるように配慮する」と記述されています。「目的に応じて」とされているのは、実生活で、円形の土地の面積を概算する場面では、おおよその面積を知ればいいので、円周率3で計算すればいいということを教えましょうということなのです。いちいち3・14を乗じて計算するのは大変なので、こうした概算できる力も、生活場面では重要だよ、と教えようというのが正しい解釈なのです。指導内容が大幅に削減された2002年の改訂について、報道機関や進学塾が、円周率3・14を学習内容の削減やゆとり教育の代表のように扱っていたのは、正確な学習指導要領の解釈ではなかったのです。（当時、私が在職していた大手進学塾でも、このように誤解をまねく解釈を、教師やご父母に伝えていました。直属の上司に進言したのに、聞き入れてもらえなかったことを今でも記憶しています・・・。）

そして、スタートした新しい学習指導要領では、「目的に応じて」以下の記述がなくなり、円周率は3・14を用いることのみが記述されています。確かに、3・14ではなく、3で計算することは、計算力という点で、大きな問題です。しかし、私は、目的に応じて数を柔軟に使い分けることも重要だと考えます。

冒頭、紹介した小学生の疑問は、数を柔軟に使い分けることができている証拠です。単なるテキストの問題が解けるだけの算数、数学ではなく、実社会にもつながる算数、数学を学んでほしいと考えます。「ぼくたち・わたしたちのハローワーク」で紹介している「渋滞学」もその一つといえるでしょう。実社会と結びつくところに、算数、数学のおもしろさがあると思います。

塾長　西川　陽祐

## 今号の内容


① あんぱんち
② 今月の論語
③ ぼくたち・わたしたちのハローワーク
④ ブラボーミュージック
⑤ 気ままに理科
⑥ TSUZUKI の TSUBUYAKI
⑦ 今月のクイズ
⑧ 読者のコーナー


## 今月の論語

子曰わく、憤せずんば、啓せず、
悱せずんば発せず。

「勉強」とはどういうことだろう？

「憤せずんば」というのは、「もどかしくて頭が爆発しそうな状態まで自分で勉強しないと」ということです。「啓せず」というのは、「わからないことを教えない」ということです。孔子は厳しいですね。「自力で努力しなければ、教え導いてやらないよ。」といっているのです。「悱せずんば発せず」というのは、「頭では理解しているのだけれど、うまく言葉で表現できず口ごもっている状態」のことです。「そういう状態になるまでこちらからは声を掛けてやらないよ。」といっているのです。

つまり、「努力しない人は面倒みないよ。」と孔子はいっているのですね。きびしい！！

なぜ孔子はこんなに厳しいことをいっているのでしょう。勉強する人の態度はこうでなければならないから、ぜひこういう態度で臨んでほしいと弟子たちに求めたのです。

それはみなさんも同じですよ。これからは、勉強するときにすぐに人に聞いてはいけません。自分で一生懸命考えるからこそ、本当に身に付く勉強ができるのです。簡単に答えを聞いてしまうと、すぐに答えを忘れてしまいます。それでは身に付く学問にはなりません。

参考図書　瀬戸謙介『子供が喜ぶ「論語」』（致知出版社）

★　★　★

## 「あたりまえだけど、とても大切なこと」

**ルール23**

ランチルームでは人のぶんまで席を確保してはいけない。もしだれかが隣に座りたがったら、座らせてあげよう。相手がだれであっても、仲間はずれにしないこと。わたしたちは一つの家族だ。おたがい尊敬の気持ちとやさしさをもちあおう。

**ルール24**

だれかがわたしやほかの先生に叱られているときには、その人のほうを見ないこと。自分が叱られているところをじろじろ見られるのはだれだっていやなはずだ。だから、人が叱られているときにも、そちらを見てはいけない。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～

（ロン・クラーク著　亀井よし子訳　草思社）より